

茨城県高等学校審議会答申の概要

質問事項

- 人口減少をはじめとした様々な社会の変化に対応した活力と魅力ある学校・学科の在り方について

生徒一人一人の夢や希望をかなえる高等学校教育改革

(1) これからの県立高等学校が果たすべき役割

- 茨城県のビジョンと一致した「地域の中の学校」としての学校教育を引き続き充実
○アントレプレナーシップ（起業家精神）をもち、地域や社会を支え、世界で活躍できる「人財」を育成
○これまで以上に地域や地元市町村、地域企業との連携を密にした教育活動の実践
○引き続き社会の著しい変化に対応した、丁寧かつスピード感ある改革の実行

(2) 活力と魅力ある学校・学科

適正配置・適正規模	【高等学校の適正配置】 ○引き続き生徒の通学実態に配慮した12エリアを基本として配置を検討 【高等学校の適正規模】 ○引き続き県内全ての地域に一律で適用する適正規模の基準は設けない 【中学校卒業者数の変動への対応】 ○近隣エリアを合わせた複数エリアの実情も踏まえ、引き続き1学年の学級数の調整により対応 ⇒ その対応が困難な場合は地域の意見に十分配慮しつつ統合等について慎重に検討 ○学校の小規模化への対応として、遠隔授業や学校同士が連携する学びの仕組みを一層推進 【その他】 ○学級編制は1学級40人を標準として設定するが、本県の実情を踏まえ弾力的な運用について検討
	【普通科】 ○進路希望や地域のニーズに対応したコースの設置を検討 ○社会の変化や地域のニーズに対応した実社会で役立つ教育 【職業教育に関する専門学科（職業学科）】 ○更なる社会の変化やニーズに合わせた高い専門性を身に付けるための教育 ○産業界や市町村行政とより一層連携した実践的な学びの展開 【職業学科以外の専門学科】 ○幅広い芸術領域を学べる学科の在り方を検討 【科学技術教育】 ○本県の教育環境を活かした科学技術教育の推進 ○将来的に本県への人材還流に繋がるような連携の在り方を検討 【国際教育（多文化共生教育）】 ○グローバル人材の育成プログラムの充実 ○相互理解を促進できる学びの在り方について検討 【広報活動の在り方】 ○今後も学校説明会や学校行事等の機会を活用した広報活動を展開 ○学校・学科の魅力や生徒の日常の様子、様々な取組などを日頃から情報発信
魅力ある学校・学科	【総合学科】 ○本県の産業構造やニーズを踏まえた配置 ○産業界や市町村行政とより一層連携した実践的な学びの展開 【定時制・通信制課程】 ○丁寧な指導を地域の力を活かして展開 ○定時制・通信制課程の配置は生徒・保護者のニーズなどを勘案しながら慎重に検討 【中高一貫教育校】 ○6年間の計画的、継続的な教育活動のより一層の充実 ○小中学校の統廃合が進む地域においては、小・中学校との連携の在り方について検討 【特別支援教育】 ○自立と社会参加ができるような指導・支援の充実 【I C Tを活用した教育（遠隔教育）】 ○I C T機器を適切に利用するための情報モラル教育の更なる充実 ○引き続き遠隔授業の活用を推進 ⇒ 学校同士が連携する取組の充実、小規模校等における幅広い選択科目の開設など
魅力訴求	【校名・学科名の在り方】 ○校名・学科名は、学校の魅力づくりの一つとして、学校の教育内容や地域等の意見に十分配慮しながら、その学校に相応しい校名・学科名への変更を検討することが考えられる

(3) その他

【次世代を見据えた先端技術等の利活用の在り方】

- 新たな先端技術等に応じた教育環境の整備
○倫理観や情報リテラシーの育成

【再編整備の在り方】

- 策定する計画は、丁寧かつスピード感をもって対応
○計画期間中も意見聴取等による成果検証を実施